



調剤室風景

調剤室には、17名の薬剤師が365日・24時間体制で勤務しています。メンバーは、50歳代のベテラン4名と30、40歳代の働き盛りの中堅4名、そして20歳代の新進気鋭の若手9名の構成で、それぞれの専門分野で活躍しています。当院では年間で1600種類、約13億円の医薬品が使用されています。くすりは病気の治療には不可欠で、薬物治療は大変有効な手段ですが、使い方を誤れば重篤な副作用も招きます。くすりがあると、くすりありとくすりに薬師ありをモットーに、院内の様々な領域で、安全な医療の提供を目指し頑張っています。

薬剤師のメンバー紹介



診療技術部長 兼 薬剤師長 後藤 誠一

くすりについて 薬剤師に



筆者(写真中央下)

調剤と薬剤師



「調剤」とは、法律で規定された薬剤師固有の行為で、医師が交付した処方箋の内容を十分に吟味確認し、お薬を取り揃え調剤し患者さんに説明して交付する、一連の行為を指します。一階調剤室には、2、3名の薬剤師が自動化された調剤システムを利用して、入院患者さんの治療薬を中心に調剤しています。以前は外来患者さんの調剤に多くの薬剤師が従事していましたが、当院では平成6年から院外処方箋発行を開始し、外来処方箋は「原則院外」で、特殊な患者さんを除き、外来の90%以上の患者さんに対して「かかりつけ薬局」の薬剤師による調剤及び、きめ細かい薬管理指導をお願いしています。

院外処方箋とジェネリック医薬品



一部の新薬を除き多くのくすりにジェネリック(後発)医薬品が発売になっています。ジェネリック(後発)医薬品とは、従来の先発(ブランド)医薬品と成分は全く同じで、生物学的に同等と認められた医薬品で、価格が3割〜7割安価になっている医薬品です。厚生労働省は、高騰し続ける医療費削減の切り札として、欧米で既に定着しているジェネリック(後発)医薬品の使用推進を図っています。当院で発行している院外処方箋では、患者さんが希望すればジェネリック(後発)医薬品に変更可能な様式になっています。希望される患者さんは、かかりつけ薬局の薬剤師にご相談ください。

注射薬調剤と無菌調製



薬剤師のもうひとつの主要な業務は、全入院患者さんの注射薬を医師の処方箋に基づき調剤し、患者さん毎に払い出す注射薬調剤業務です。当院薬剤師は当直、休日の日直も含め24時



抗がん剤無菌調製

病棟での薬剤師



すべての病棟に各一名の専任薬剤師が常駐しています。入院患者さんの治療に使われているお薬で「副作用が発現していないか」、「期待通りの効果が得られているのか」、「より安全で効果的な使い方やお薬はないのか」などについて常に医師や看護師と相談しながら、安心して安全



注射薬無菌調製

間365日対応しています。また、地下一階にあるクリーンルーム内では、無菌的な環境で薬剤師が特殊な注射薬を調製することで、より安全な医薬品を供給しています。また、外来や入院で施行する癌化学療法に使用する全ての抗がん剤も、特殊な安全キャビネットを使って、薬剤師が無菌的に安全に調製供給しています。